九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告 : 第3巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/8303

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 3, pp.1-152, 2007-04. AQUA事務局
バージョン：
権利関係：

11.　おわりに

我々の役割は何だろう？

日本において一昔前まで遠隔医療といえば､国内の僻地や離島など医療の人的資源が不足している地域への IT を用いた補完システムのことであった。使用できる回線の帯域を気にしながら、伝達する情報量・種類を絞り込むことが考えられてきた。近年はこれに加え、ヘルスケアネットワーク、つまり在宅や介護施設など医療施設以外での医療サービス提供も含まれるようだ｡随分違うサービスのようにも思われるが、「どの場所でも標準医療を提供するサービス」という点で同じコンセプトを持つ。

AQUA の試みの特徴は、非常に大きな帯域を持つアジア太平洋地区の国際回線を用いて高品質動画を用いて医療情報を流通させる、というところにある。これも考えてみると、「どの場所でも標準医療を提供するサービス」の一つと言え、まさに遠隔医療そのものである。

4 年間 AQUA の活動を行ってきて当初は少なからず、アジア太平洋地域全体へ日本の先進医療を標準として広げよう、という思いがあったが、「井の中の蛙 (a big fish in a small barrel)」であることを思い知った。医療とはその土地、風土、習慣、宗教、そして人々の体質にあったサービスを提供することであり、アジア太平洋地域ではこの努力の連続により、多くの場合に素晴らしい医療サービスを既に持っていることが判ったからだ。つまり「標準医療」とは高度医療のことではなく、医療の根底に横たわる大きな「いたわり」の思想なのである。その意味で標準医療からそれやすいのはむしろ日本など先進医療を持つ国かもしれない。我々の役割は「井の中の蛙に大海を見せること (let a big fish in a small barrel know about sea)」に違いない。

2007 年 3 月

九州大学病院医療情報部
中島直樹